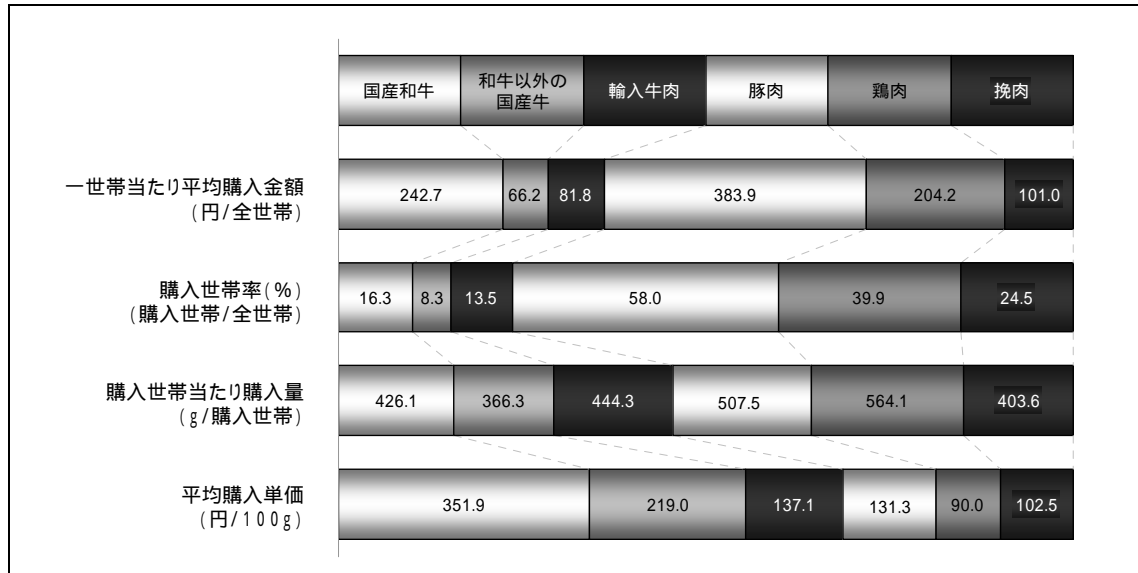


第 章 食肉の購入構造

1 食肉市場の構造(食肉比較)

1. 食肉の購入構造

図表 -1 食肉の購入構造



1) 全体

市場規模のレベルを表す一世帯当たり平均購入金額をみると、「牛肉」が390.8円、「豚肉」が383.9円、「鶏肉」が204.2円、「挽肉」が101.0円となった。

牛肉は「国産和牛」242.7円、「輸入牛肉」81.8円、「和牛以外の国産牛」66.2円である。

購入世帯率は「豚肉」の58.0%、購入世帯当たり購入量は「鶏肉」の564.1g、平均購入単価は「国産和牛」の351.9円/100gが最も高い。

「豚肉」は、購入世帯率(58.0%)と購入世帯当たり購入量(507.5g)で、「牛肉」の購入世帯率(35.4%)と購入量(448.1g)を上回るが、「牛肉」は平均購入単価が246.9円/100gと、「豚肉」の131.3円/100gの1.8倍近くになっており、一世帯当たり平均購入金額でみると「牛肉」390.8円、「豚肉」383.9円と若干だが「豚肉」を上回る結果となった。また、「鶏肉」は購入世帯当たり購入量が564.1gと最も多いが、平均購入単価が90.0円/100gと最も安いいため平均購入金額(204.2円)は、「牛肉」(390.8円)、「豚肉」(383.9円)を大きく下回る。

1 食肉市場の構造(食肉比較)

1. 食肉の購入構造

2) 牛肉

「牛肉」は購入世帯率が35.4%、購入世帯当たり購入量が448.1gで「豚肉」を下回ったが、平均購入単価は246.9円/100gと「豚肉」の1.8倍、一世帯当たり平均購入金額が390.8円と最も高くなった。

「国産和牛」は平均購入単価が351.9円/100gと「輸入牛肉」(137.1円/100g)に比べて200円以上も高いが、購入量が426.1gあり「輸入牛肉」の444.3gとほぼ同程度となっている。このため、購入世帯率(16.3%)は、「豚肉」、「鶏肉」、「挽肉」に次ぐ第4位となっているが、一世帯当たり平均購入金額が242.7円と「豚肉」に次いで高い市場規模であることがわかる。

3) 豚肉

「豚肉」は平均購入単価が131.3円/100gと「牛肉」の半値程度であるが、購入世帯率は58.0%、購入世帯当たり購入量が507.5gと高く、量的には一番買われている肉であるといえる。一世帯当たり平均購入金額は383.9円と「牛肉」を下回るもののその差は6.9円とわずかしがなく、市場規模はほぼ「牛肉」と並ぶ。

4) 鶏肉

「鶏肉」の一世帯当たり平均購入金額は204.2円で、「牛肉」(390.8円)、「豚肉」(383.9円)の半分近くである。購入世帯当たり購入量は564.1gと最も多いが、平均購入単価は90.0円/100gと100円を下回る。購入世帯率は39.9%で「豚肉」に次いで2番目。「牛肉」をやや上回る程度である。

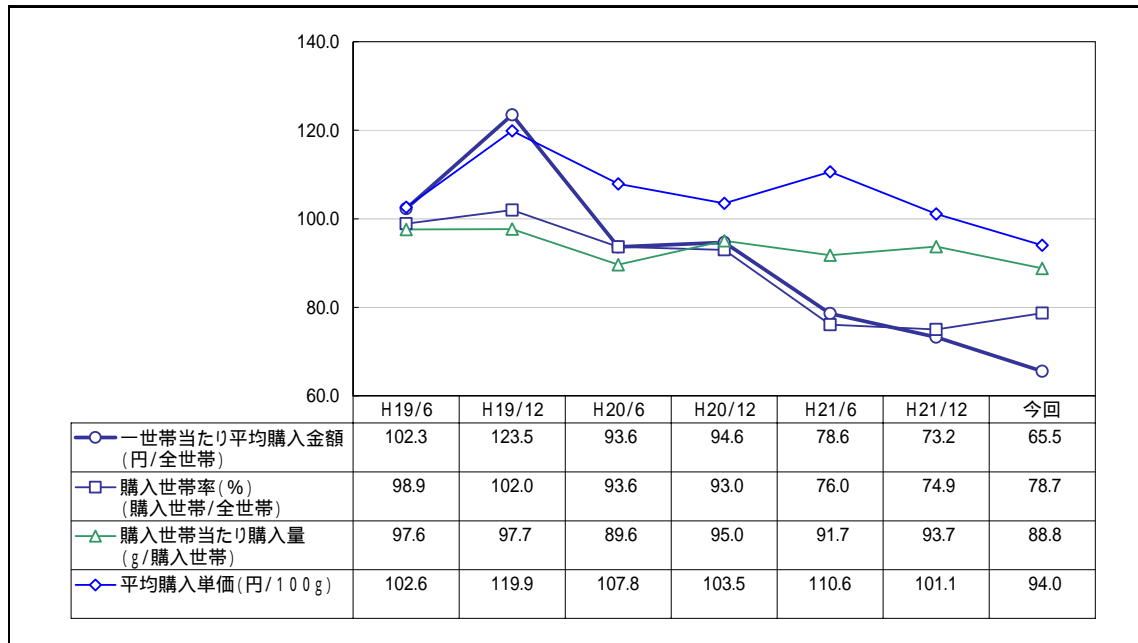
5) 挽肉

「挽肉」の一世帯当たり平均購入金額は101.0円で、「牛肉」(390.8円)、「豚肉」(383.9円)の4分の1、「鶏肉」(204.2円)の2分の1程度である。平均購入単価は102.5円/100gと「鶏肉」(90.0円/100g)を上回ったが、購入世帯率は24.5%、購入世帯当たり購入量は403.6gと最も少ない。

2 食肉市場の構造変化

1. 牛肉の購入構造の変化

図表 -2 牛肉の購入構造の変化



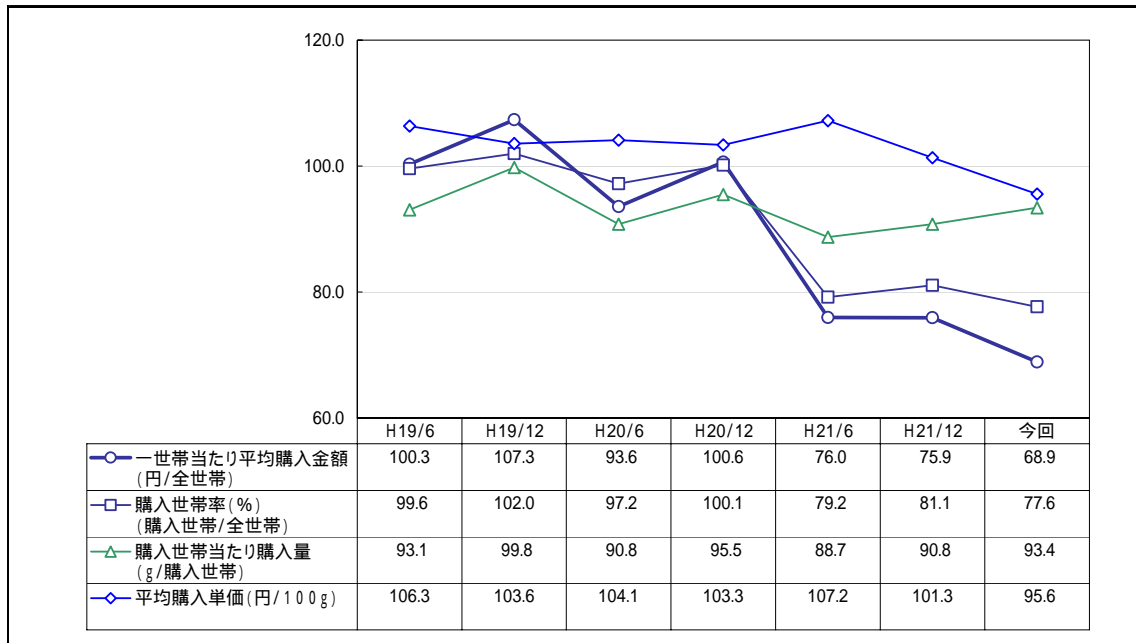
牛肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、平成19年12月調査をピークに減少傾向にあり、今回の調査では過去7回の調査と比べて最も低いレベルとなった。

「購入世帯率」はやや上昇したが、「購入世帯当たり購入量」はスコアを下げている。「平均購入単価」は、今回も低下し、平成19年6月調査以降で最も低くなっている。牛肉購入世帯でも低価格志向が表れている。

2 食肉市場の構造変化

2. 豚肉の購入構造の変化

図表 -3 豚肉の購入構造の変化



豚肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、平成20年6月に一度下降し、平成20年12月に再び上昇したが、平成21年6月で急落した。今回も前回を下回り、過去7回の中で今回が最も低い。

「購入世帯率」は前回わずかな回復が見られたが、今回は低下した。

「購入世帯当たり購入量」は、冬に上がり夏に下がるという季節変動が見られていたが、今回（夏）は前回（冬）より2.6ポイントとわずかであるが上昇し、過去の夏の調査の中で最も高い。

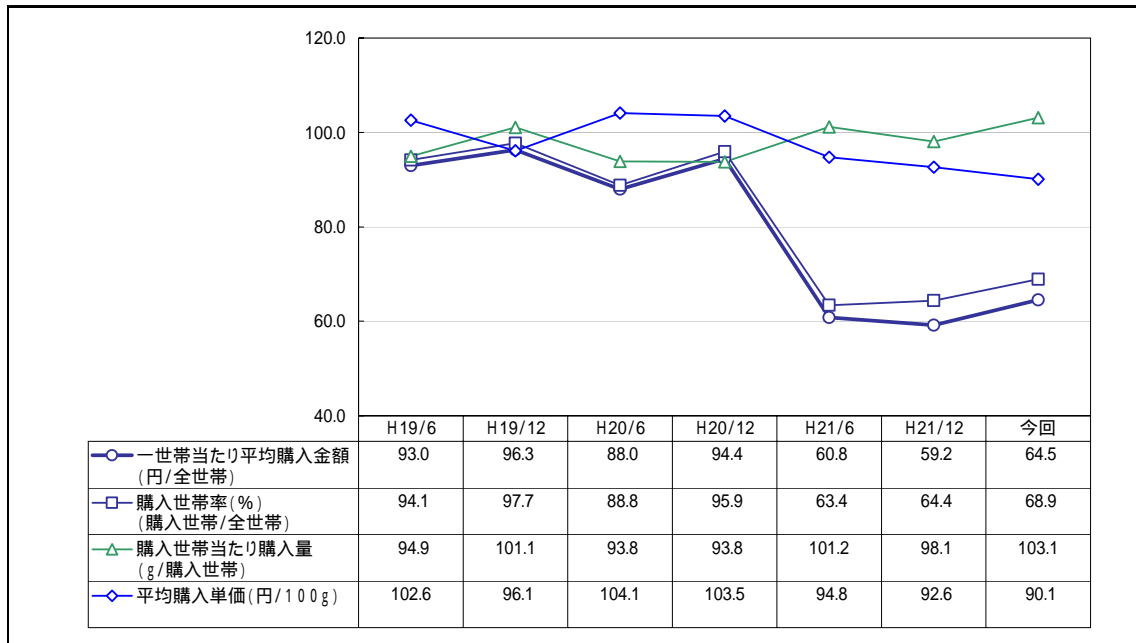
「平均購入単価」は前回より低下し、過去の調査の中で最も低い水準になった。

今回の結果からは低価格志向がみられ、市場規模も減少傾向がうかがわれる結果となった。

2 食肉市場の構造変化

3. 鶏肉の購入構造の変化

図表 -4 鶏肉の購入構造の変化



鶏肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は平成21年6月に急落し、減少していたが、今回はわずかであるが増加した。

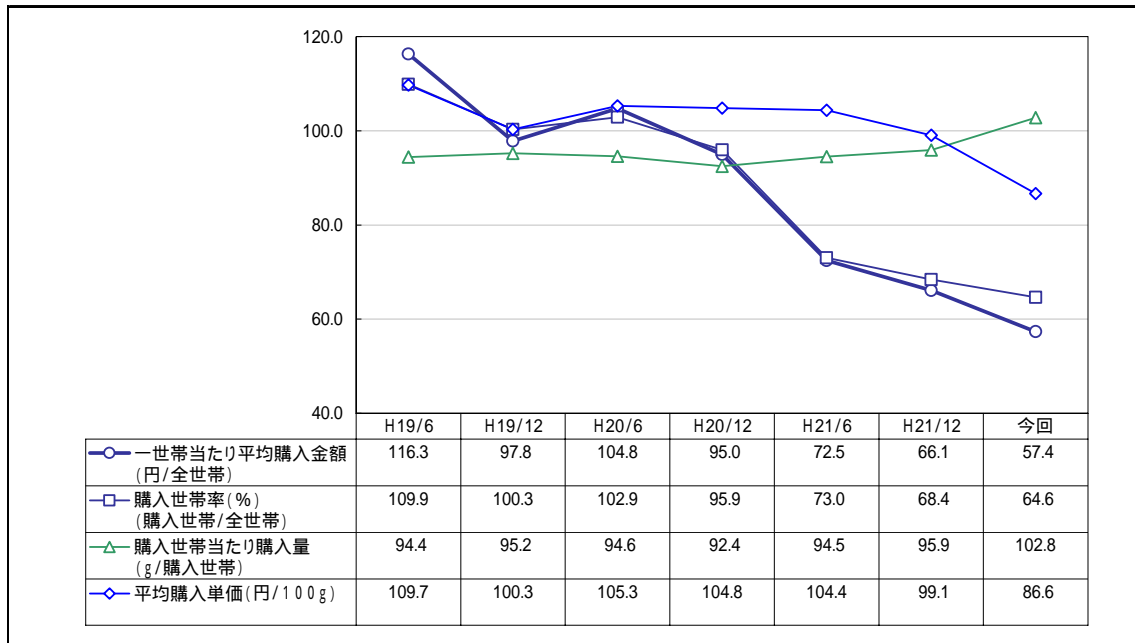
「購入世帯率」も前々回大幅に低下し、前回より微増しつつあるが、回復には至っていない。「購入世帯当たり購入量」は前回上昇し、最も高いスコアとなった。「平均購入単価」も前回低下したが、今回もさらに低下している。

今回も低価格志向がさらに強まり、より安い鶏肉を求めて多く購入している傾向がみられる。

2 食肉市場の構造変化

4. 挽肉の購入構造の変化

図表 -5 挽肉の購入構造の変化



挽肉の市場規模を示す「一世帯当たり平均購入金額」は、夏に上がり冬に下がるという季節変動がみられたが、平成21年6月の夏の調査で、豚肉や鶏肉と同様急落し、今回はさらに低下している。

「購入世帯率」も前回下がったが、今回さらに低下した。「購入世帯当たり購入量」は前回に引き続き増加しており、比較的安定している。「平均購入単価」は平成20年6月から前回までは横ばいだったが、今回は前回同様に低下し、過去6回の調査と比べて最も低い水準になった。

挽肉についても低価格志向があらわれ、より単価の安い挽肉を多く購入している状況がうかがえる。